

■紀海音 浄瑠璃作者。豊竹座座付として近松門左衛門に対抗。禅僧・医師・菓子商・俳人・狂歌人とマルチな生涯。

きのかいおん

殉死の禁止・1663＝ 大坂御堂前雛屋町西南角の禁裏御用菓子商(鯛屋)善右衛門で貞門の俳人榎並貞因の次男に生まれる。

兄(異母兄弟説がある)は狂歌師油煙斎貞柳, 叔父(貞因の弟)は俳人・狂歌師貞富という文学環境に育つ。

酒井忠清大老1666＝ 3歳：

父の指導と支えを受けて、

・・・・・・1671＝ 8歳：_早くも、句集に入集。

東西海運確立1672＝ 9歳：

藤十郎登場・1678＝15歳：この年、父が大坂に移住してきた岡西惟中のパトロンとなる。

徳川綱吉將軍1680＝17歳：

天下一禁止・1681＝18歳：

好色一代男・1682＝19歳：惟中に従い、悦山和尚に会う。

堀田正俊暗殺1684＝21歳：

・・・・・・1686＝23歳：師事していた下河辺長流が死去。この前後、_契沖に弟子入りし、岡西惟中の講席に本格的に連なる。

この前後、結婚して、

・・・・・・1689＝26歳：一子亀松が誕生。_惟中編漢詩歳旦集に詩が掲載され、

湯島聖堂・1690＝27歳：_「遊仙窟鈔」を刊行。

生類憐令頂点1695＝32歳：亀松が夭折して悲嘆し、父から居を移すように言われ、別居。

この間、勉学に励み、_契沖の高弟に仲間入り。

・・・・・・1699＝36歳：この頃、_出家し、悦山和尚その他に師事し禅僧修行。

・・・・・・1700＝37歳：_父が死去し、兄の狂歌師油煙斎貞柳が{鯛屋}の経営に当るなか、悲憤慨嘆して吟行に出、諸国放浪、

赤穂浪士切腹1703＝40歳：「けいせい懐子」を皮切りに、浄瑠璃作品も書き始め、

团十郎刺殺・1704＝41歳：この頃、大坂に戻り、_還俗して医師となり、「海音」の名で俳壇に登場、
_「難波の宗匠」と呼ばれるほど活躍する。

富士宝永噴火1707＝44歳：*豊竹座再興のとき座付作者となり、道頓堀の東の「海音・豊竹若太夫」と西の「近松・竹本義太夫」が競演し、
浄瑠璃を飛躍的に発展させて行く。

辻つ拘束・1708＝45歳：

徳川綱吉没・1709＝46歳：

・・・・・・1710＝47歳：「お染久松袂の白しぼり」、「腕久末松山」初演。

冥途の飛脚・1711＝48歳：「今宮心中丸腰連理松」、

和漢三才図会1713＝50歳：「傾城三度笠」、

国姓爺合戦・1715＝52歳：「浄瑠璃古今の序」初演。

徳川吉宗將軍1716＝53歳：「八百やお七」、「鎌倉三代記」「新板兵庫の築島」初演。

隅田川の桜・1717＝54歳：「傾城国性爺」初演。

御蔭参流行・1718＝55歳：「山樹大夫葭原雀」初演。

・・・・・・1719＝56歳：「笠屋三勝二十五年忌」、

小石川薬園・1721＝58歳：「三輪丹前能」初演。

・・・・・・1722＝59歳：「心中二つ腹帯」、「大友皇子玉座靴」初演。

火の見櫓制・1723＝60歳：*「傾城無間鐘」まで、豊竹若太夫に協力して、50近い作品を創作。

近松没・・・1724＝61歳：*近松が死去。妙智火事で芝居小屋や{鯛屋}が焼失したため、引退。兄に代わり鯛屋の経営に従事、

懷徳堂公認・1726＝63歳：

浄瑠璃作品以外にも俳諧、雑俳、和歌、狂歌、歌謡、浮世草子(存疑作)などの作品がある。古今伝授も受けて、俳諧や詩歌の交遊も盛んであった。

・・・・・・1730＝67歳：俳号を貞峨と改める。

享保大飢饉・1732＝69歳：

・・・・・・1734＝71歳：_兄貞柳の没した後は{鯛屋}を養子忠七に任せ、高津菩提庵に隠居。

昆陽蕃蕃考・1735＝72歳：_医師として法橋位に叙せられ、契因と改号。

・・・・・・1740＝77歳：「狂歌活玉集」刊。

公事方御定書1742＝79歳：_没した。